善教寺
ZENKYO-JI

寺報 縁

2026年（令和８年）
No. 371
１０月号
Zenkyo-ji monthly Communications Paper
En ［えん］

Buddhist ruins exploration record at silk road

シルクロード仏教遺跡探訪記

全３７日間

２１日目【2000年5月4日 午前】

絶望感を味わう〈ハミ（哈密）〉前半

朝食後、中国銀行（日本円の現金とトラベラーズ・チェックを両替可能な唯一の銀行）へ行くと閉まっていた。銀行の入口に、『5月7日まで休み』と、大きな張り紙に書かれてあった。ただ呆然として、数分くらいそれを見ていた。何かの間違いであって欲しいと、気が抜けたように立ち尽くして、何度も確認したので、やはり間違いなかったのであろう。

お金がないと、次の都市には行けない。歩いて行けるわけもなし。冷静になって、手元の現金を数えると、明後日くらいまでの食費しか残っていなかった。

昨夜ホテルにチェックインした時、二泊分のデポジット（保証金）を現金で支払っており、わずかの現金しか残っていなかった。

ホテルに帰り、トラベラーズ・チェックを両替できないかと聞いても、無理だと言われた。何度も、必死な形相で、しつこく迫ると、ようやく市内の銀行に電話をかけてくれたが、どこも休業日で、両替は出来ないとのこと。



ハミ（哈密）の街



ハミ（哈密）の街

住職レター

毎月、月忌参りでお会いする、大好きなおばあちゃんがいらっしゃいます。御年、今年で百三歳になられる方。いつも笑顔で元気に、私を迎えて下さいますので、私の方が、元気を貰える感じで、お会いするのが楽しみです。

私が住職を継いだ時から、毎月お会いしていますので、約三十二年のご縁になりますでしょうか。

お会いしてから今日まで、病気されることもなく、月忌参りで一緒にお経を称えて参りました。

今年の六月の月忌参り時、私の方から、「お仏壇の前で、一緒に写真撮りましょう」と申し上げ、お孫さんに撮って貰ったのが、この素敵な笑顔の写真です。

私が、「ここに座りんさい」、するとおばあちゃんが、「これは、お寺さんの座布団じゃけん」と断られ、そして私が、「気にしんさんな、少しでも座布団の厚みで高くなった方がええよ」こんなやり取りを、おばあちゃんとしていた時の写真です。

お孫さんが、最高のタイミングで、写真に撮って下さいました。

あまりにも、素敵な笑顔のおばあちゃんだったので、お孫さんに、「中国新聞に写真投稿されては？」と伝えた結果が、六月二十二日の朝刊、広場の「写ッター」記事に掲載されたという訳です。

6月22日（月曜日）
中国新聞朝刊
広場欄「写ッター」の記事


22日（月曜日） 中国新聞
広場
家族晴れ
写ッター
祖母とお寺さん
下川 健二（東広島市）



中国新聞に投稿された写真

発行日：2026年9月25日（毎月25日発行）発行所：浄土真宗本願寺派 善教寺
〒739-0036 東広島市西条田口500-4
TEL(082)425-1357 FAX(082)425-1248

Buddhist ruins exploration record at silk road

シルクロード仏教遺跡探訪記

21日目【2000年5月4日 午前】 全37日間

絶望感を味わう〈ハミ（哈密）〉後半

初めて味わう類の絶望感であった。手元にお金があるのに、それは使えない。日本円が、ただの紙切れとなっていた。なんとも表現のしようのない、絶望感に陥っていた。

明日には、ここハミ（哈密）を発ちたかったので、フロントで「今晩の食事代もない」と訴えると、ホテルの支配人らしき人が出て来て、「現金の１万円札なら特別に両替をしよう」と言ってくれた。

しかし、両替レートを見て驚いた。弱みに付け込んで、足元を見られるとは、このことかと、心底実感した。銀行で両替するより１００元は損をする両替レートであった。

ここに泊まっている客じゃないか、お金を節約して一人旅をしているんだ、と散々交渉して、最後に２０元だけ上乗せしてもらい、ようやく人民元を手にすることが出来た。

商品を買う時に値切るのとは違い、何としても、現金を確保したい旅行者の弱みに付け込むやり方に、悔しくて、どうしようもなかった。



ハミ（哈密）のモスク



ハミ（哈密）のモスク

今後の法要スケジュール

「宗祖聖人月忌・門信徒祥月命日法要」（善教寺本堂）

十　月　十六　日（金曜日）

午後一時半～

＊毎月十六日に本堂において勤めております。

「護持会報恩講」（善教寺本堂）

十　月　三十一日（土曜日）

午前十時～　朝席

午後一時半～　昼席

午後三時半　法要終了

講師　広幡　康祐　師（呉市安浦町　信楽寺）

「報恩講」（善教寺本堂）

十二月　二　日（水曜日）

午前十時～　朝席

午後一時半～　昼席

午後三時半　法要終了

講師　徳正　俊平　師（三原市大和町　徳正寺）

＊お接待当番　井ノ邑地区